

移民政策学会 2011年度年次大会 自由報告

**浜松市におけるブラジル人のメンタルヘルス
～2009年度調査の結果とその後の展開～**

2011年5月22日(日) @立教大学(新座キャンパス)

静岡文化芸術大学 文化政策学部

国際文化学科 池上 重弘

ikegami@suac.ac.jp

0. 本報告の目的

- 「浜松市における外国人市民のメンタルヘルス実態調査」(2009年度)の結果報告
 - 浜松市精神保健福祉センターより受託
 - 社会経済的背景に焦点を当てて分析
- 調査結果を踏まえた新たな施策展開の意義を検証
 - 「外国人メンタルヘルス相談窓口」(2010年7月)

1. 調査の目的と特色

- 目的

- 2008年後半以降の経済状況悪化に伴うブラジル人市民のメンタルヘルスの実態と傾向を把握
- 市の総合的自殺対策推進のための基礎資料

- 特色

- ブラジル人集住都市での経済危機後のメンタルヘルスに焦点を当てた大規模調査
- アンケート調査と個別面接調査を実施。

調査の受託者および研究チームの構成

- 調査受託者 静岡文化芸術大学
 - 研究担当者: 池上重弘 (静岡文化芸術大学文化政策学部)
- 研究協力者:
 - イシカワ エウニセ アケミ (静岡文化芸術大学文化政策学部)
 - 竹ノ下弘久 (静岡大学 人文学部)
 - 玉置えみ (ワシントン大学大学院博士課程)
 - 橋本剛 (静岡大学 人文学部)
 - 千年よしみ (国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部)
 - ヤマモト ルシア エミコ (静岡大学 教育学部 附属教育実践総合センター)

先行研究

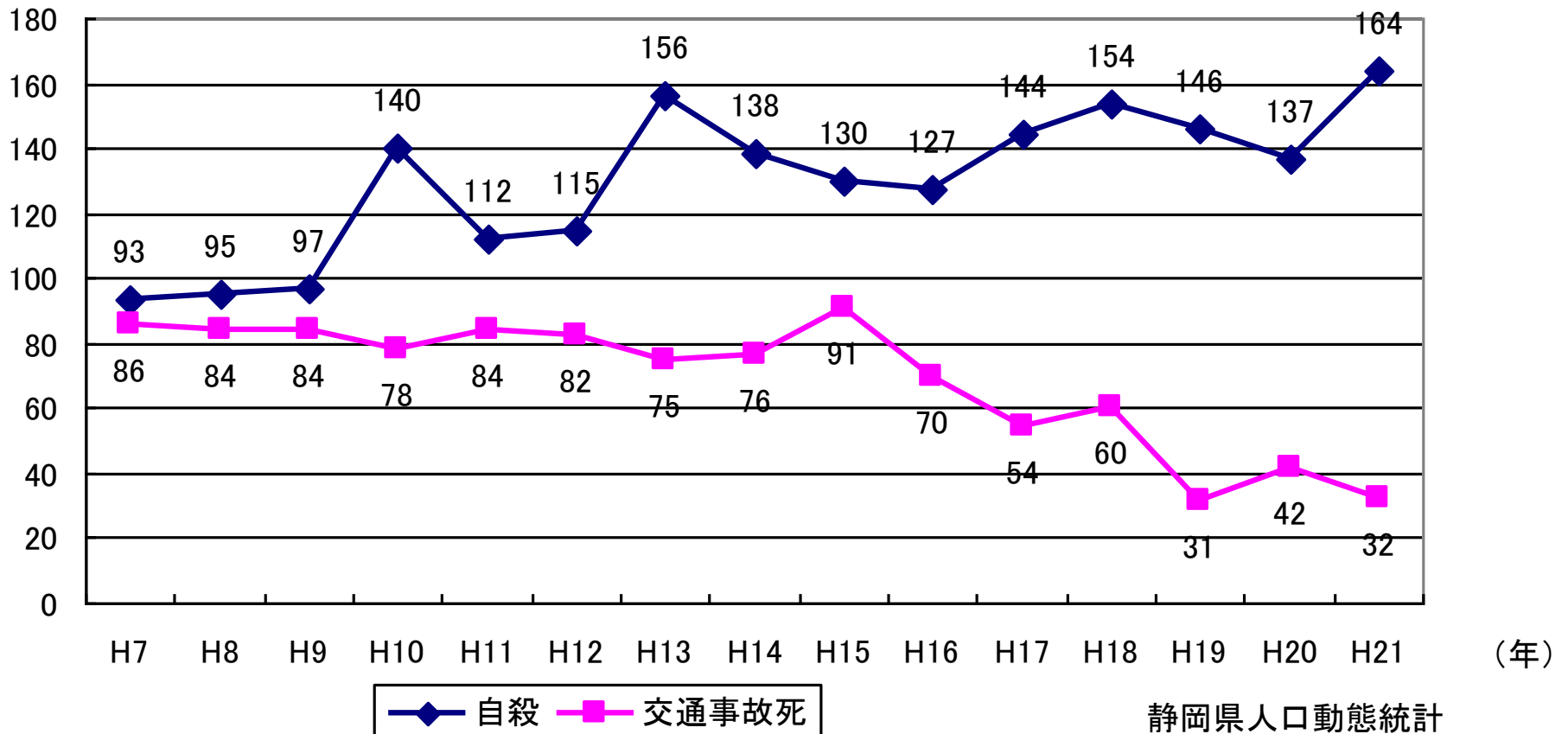
- 精神科医や支援者ら
 - 移住とメンタルヘルスの現場からの関心
 - 野田文隆(1998、2009)ら、多文化間精神医学会
- 体系的調査
 - 宮坂リンカーンら(大塚他2001、2003、宮坂2000)
 - 精神科の外来受診者群と一般住民群を対象
 - 同じアンケート調査で比較検討→統計的有意差
 - ブラジル居住時の既往歴や外傷体験が不適応を通じて精神障害を発症、と結論
- しかし2000年代末は大きな状況変化



浜松市の自殺の現状

(人)

図 死亡者数の年次推移(浜松市)



静岡県人口動態統計



自殺死亡率(2009年)

	自殺者数	人口10万対死亡率
全国*1)	30,649	24.4
浜松市*1)	164	20.2
ブラジル*2)	8,500*3)	4.6

*1) 厚生労働省 人口動態統計(概数)

*2) WHO 2005年

*3) 人口10万対死亡率から概算

浜松市での大規模調査

- 南米系外国人の実態調査として
 - 1992、1996、1999、2003、2006年に調査
 - 今回の調査は2006年調査の延長線上
- 精神保健福祉施策（とくに自殺対策）の基礎資料として
 - 2008年5月に、15歳以上の日本人市民を対象に「こころの健康と自殺対策に関するアンケート」調査を実施。
 - 今回の調査は日本人調査との対比を念頭に

調査の対象と方法

(1) 質問紙調査

- 対象: 外国人登録をしている16歳以上のブラジル人男女のうち無作為抽出された5,000人
- 期間: 2009年12月1日～14日、無記名自記式郵送法ポルトガル版とルビ振り日本語版の2通を同封
- 結果: 未達915件(未達率18.3%)
回収数721件(回収率17.6%)
* 日本語版での回答は70件(回収数全体の9.7%)

(2)個別面接調査

- 対象: 質問紙調査で個別面接調査に同意した方
- サンプリング: 自殺念慮の背景を探るため、男女、日系か非日系か、自殺念慮有無の観点で選定
- 期間と面接場所: 2010年1月15日～2月7日、精神保健福祉センターに来所してもらって実施
- 結果: 26名に実施
ブラジル人のメンタルヘルス専門家が60～120分の半構造化面接を実施

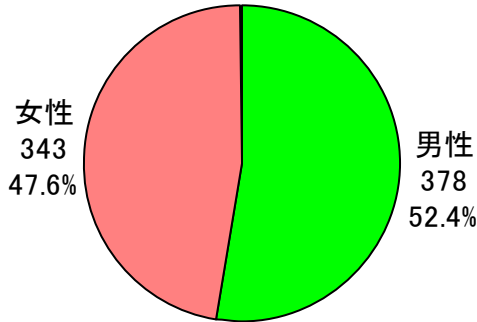
2. 調查結果

2-1. 質問紙調査

回答者の状況

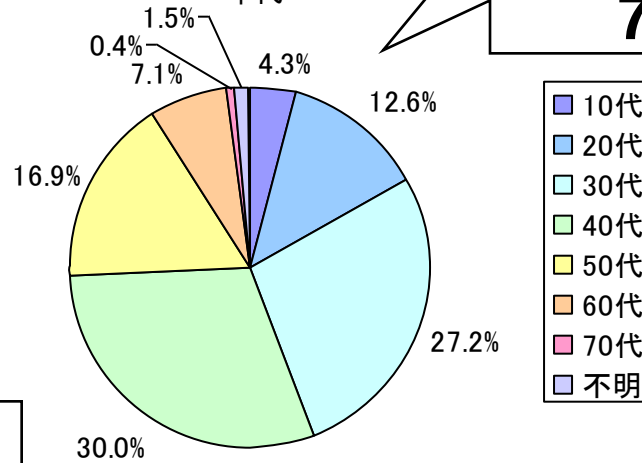
男女半数

性別



40代が最も多く30.0%
60代以上も7.5%

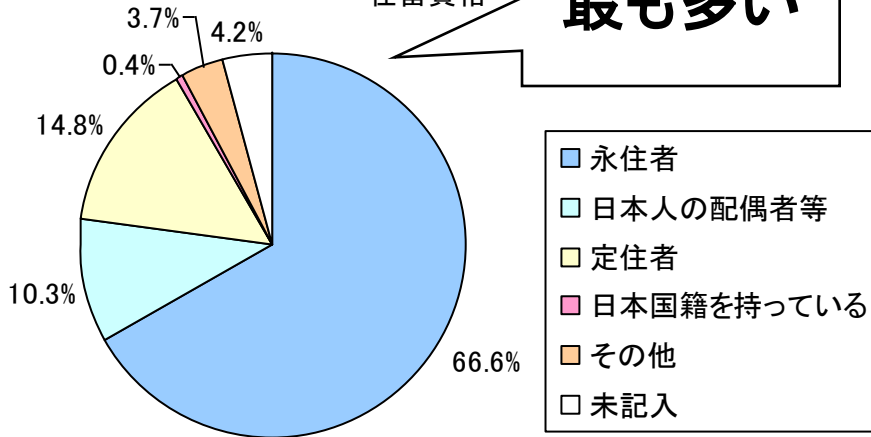
年代



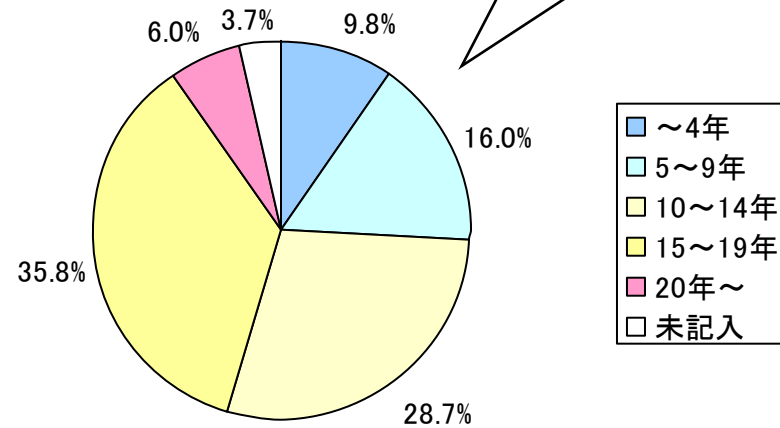
10年以上の滞在者が70.5%

在留資格

永住者が最も多い



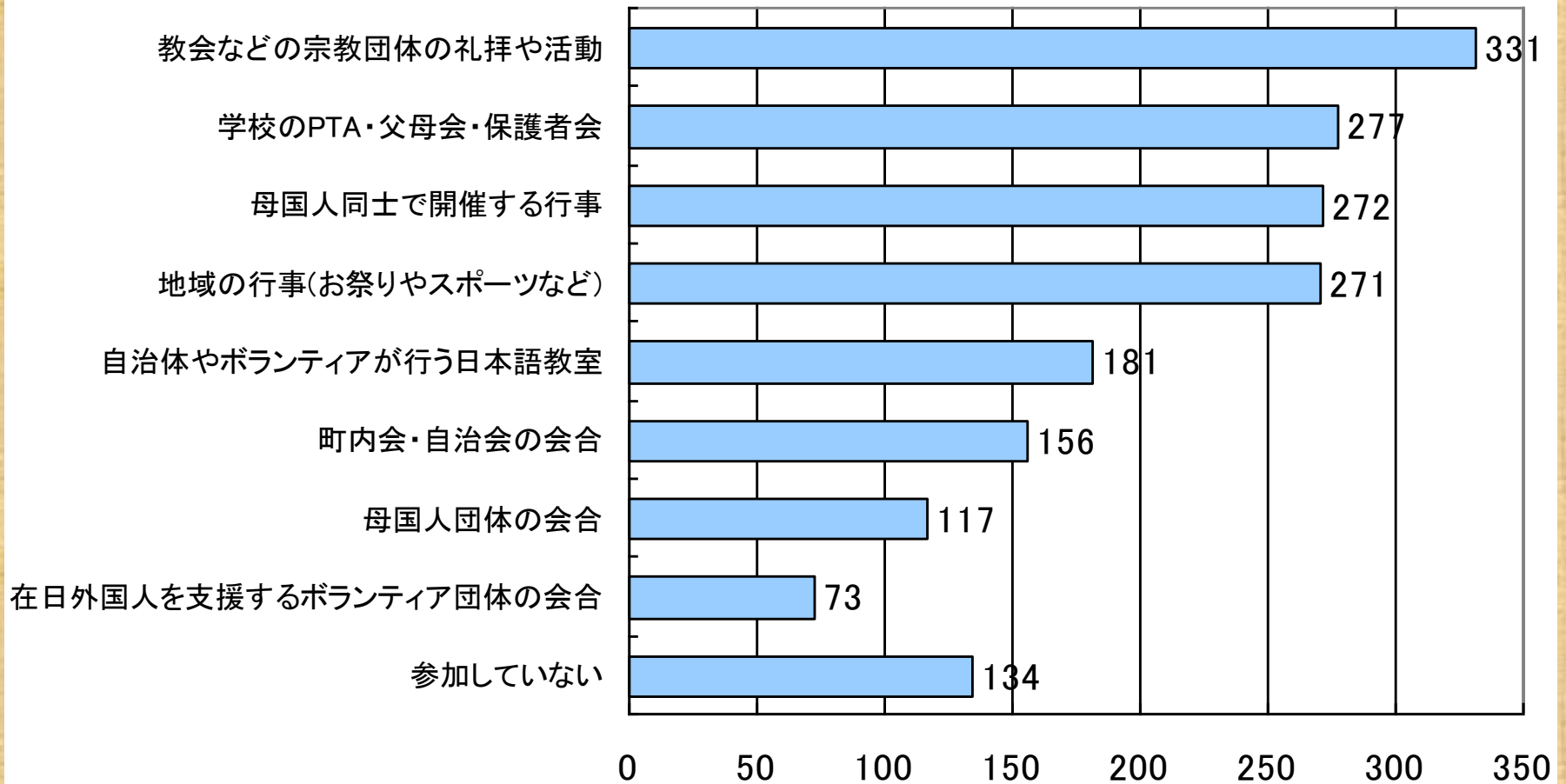
日本での滞在年数



地域との交流

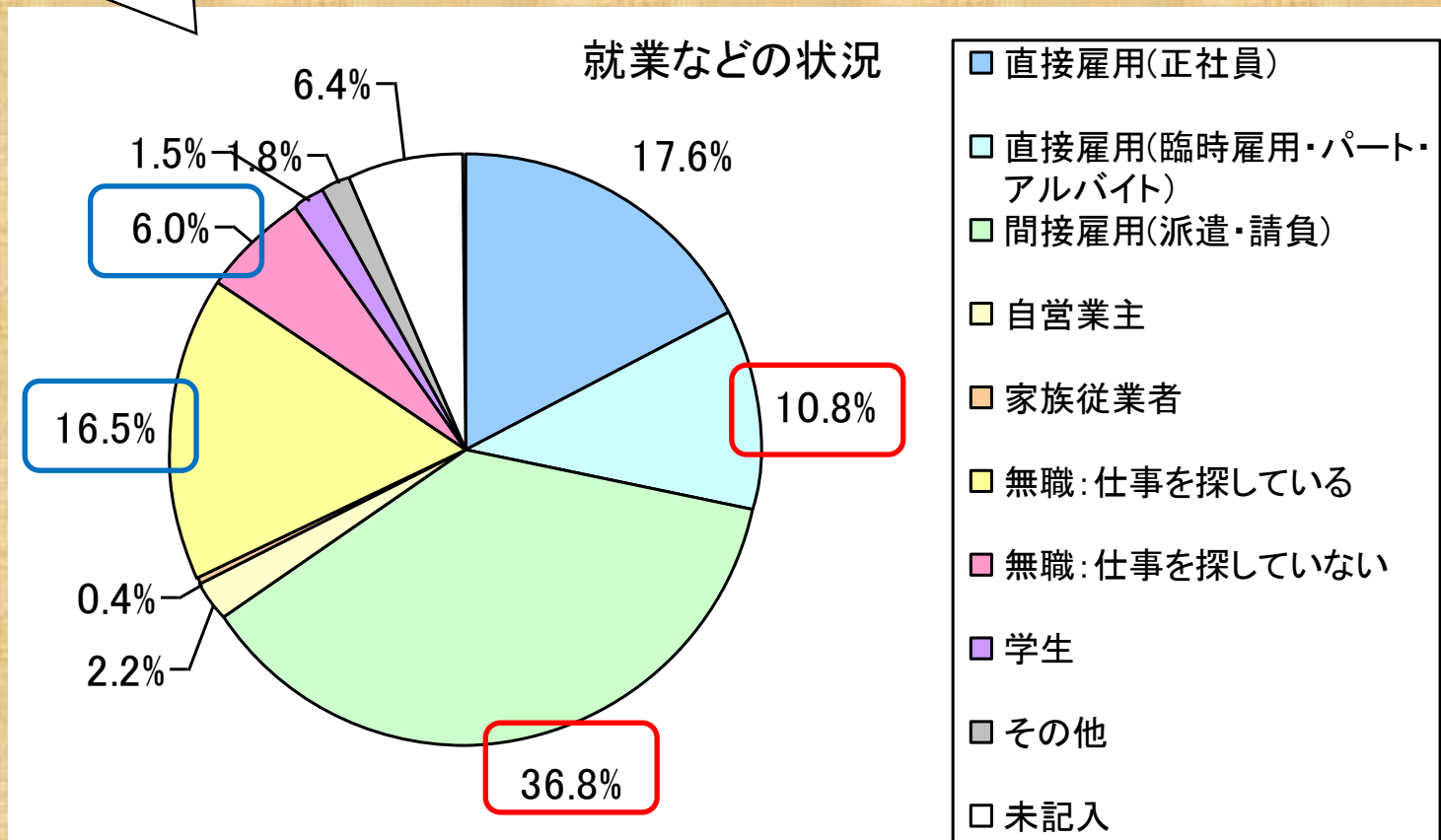
8割が何らかの団体・活動に参加
参加していないのは約2割

(複数回答)



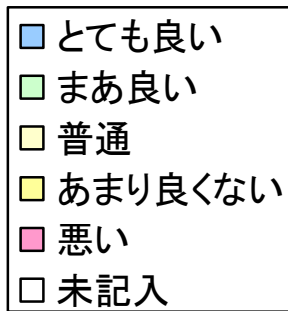
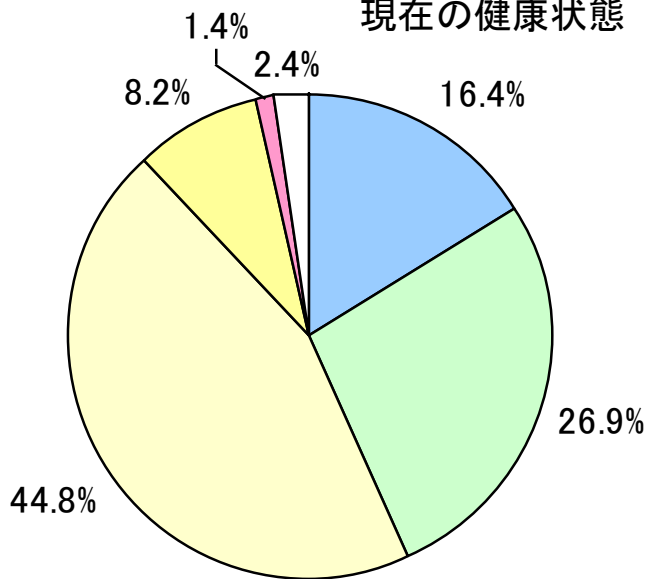
就業などの状況

派遣・臨時が最も多く約5割
無職は約2割



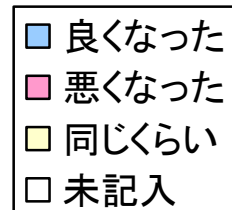
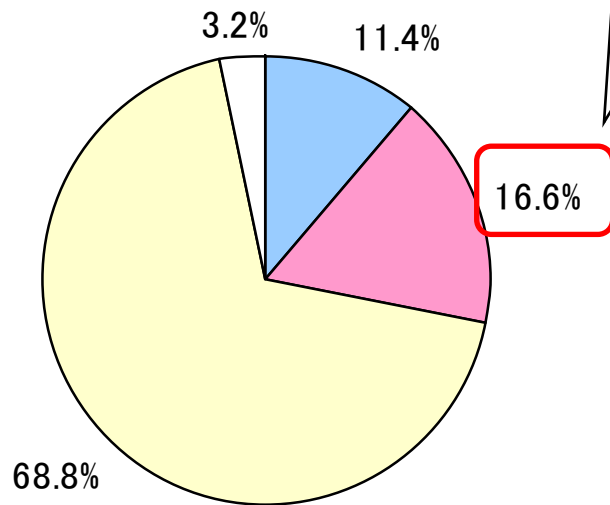
健康状態

現在の健康状態



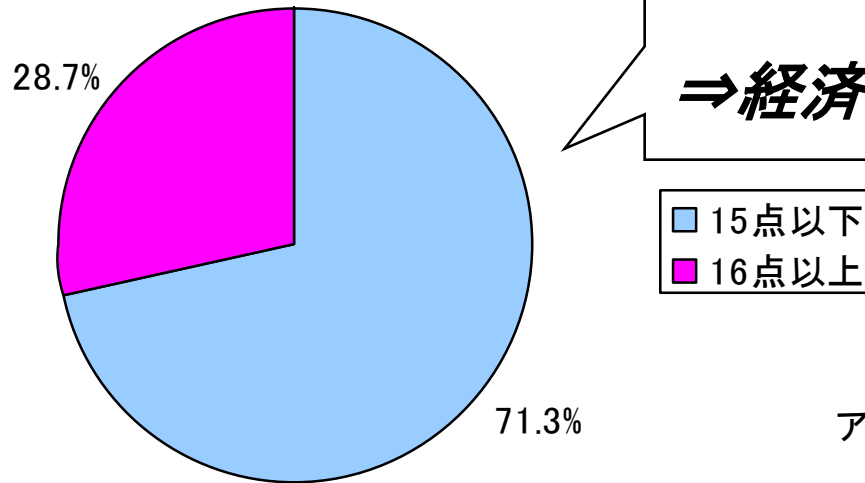
2年前と比べて
「悪くなった」のは
約6人に1人

2年前との健康状態の比較



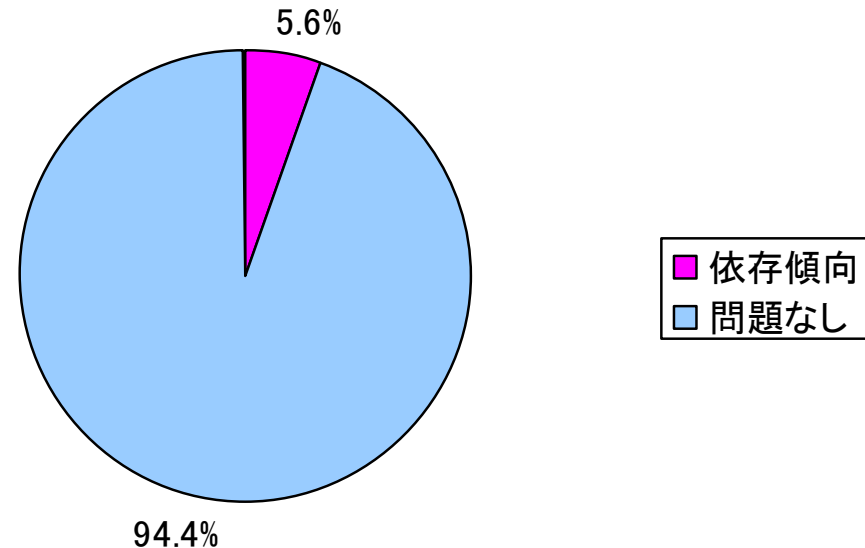
抑うつ・アルコール依存

抑うつ傾向 (CES-D) n=508



抑うつ傾向の人は約3割
日本人市民調査と同数
⇒経済危機による抑うつが考えられる

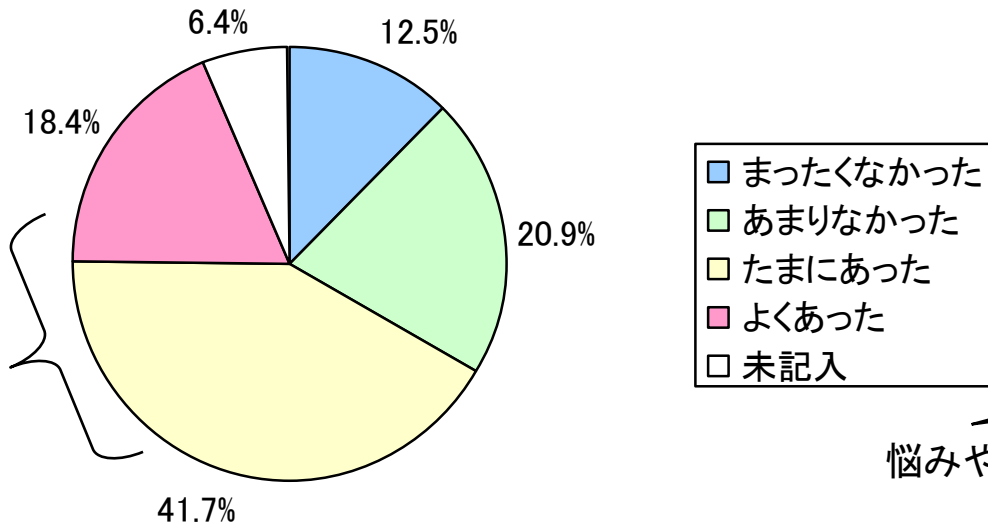
アルコール依存 (CAGEテスト) n=585



アルコール依存傾向の人は
約5%
日本人市民調査では
約10%

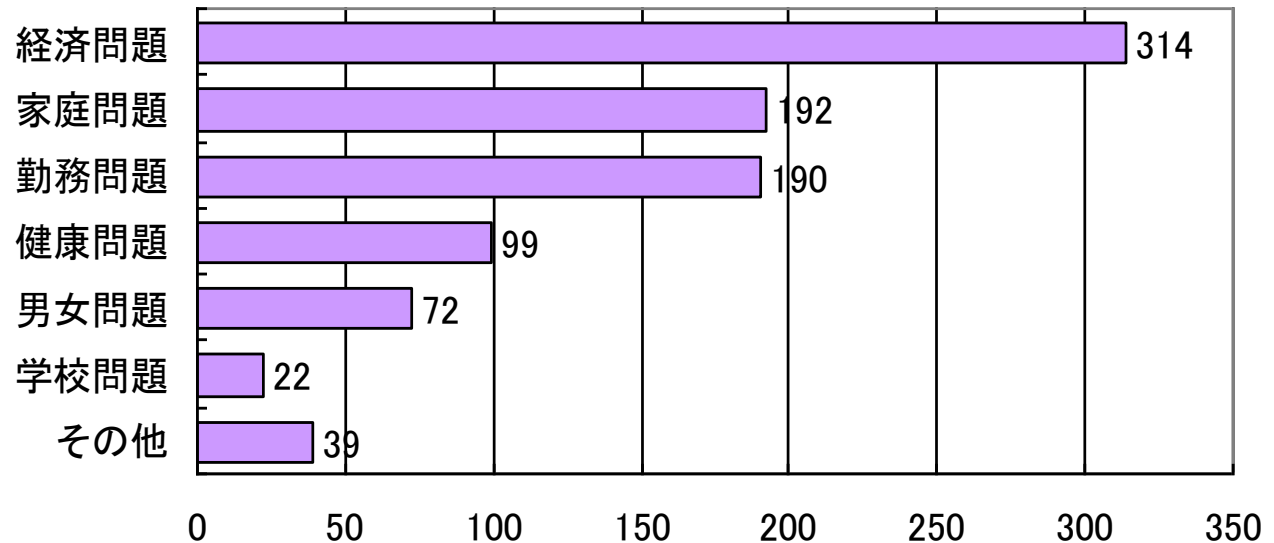
この1年間の悩みやストレス

この1年間の悩みやストレス



ストレスがあったと自覚しているのは約6割
日本人市民調査では7割
内容は、経済的な問題がもっとも多い

悩みやストレスの原因（複数回答）



浜松市が市民メンタル調査

日本人並みの3割

ブラジル人も抑うつ傾向

浜松・遠州版

ニュース情報は下記へどうぞ

浜松・報道部
053 (421) 6036
(FAX)
053 (421) 5218

浜西支局
053 (576) 5081
(FAX)
053 (576) 5078

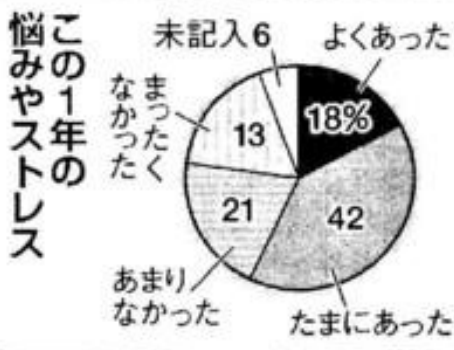
細江通信部
053 (523) 0661
(FAX)
053 (523) 2674

天竜通信部
053 (925) 2540
(FAX)
053 (922) 0003

浜北通信部
053 (587) 5831
(FAX)
053 (586) 7911

静岡総局
静岡市葵区呉府町1の2
三井住友海上ビル
(〒420-0031)
054 (255) 2121
(FAX)
054 (255) 2124

豊橋総局
0532 (52) 7181
(FAX)
0532 (54) 4655



浜松市精神保健福祉センターは十七日、初めて行った、ブラジル市民のメンタルヘルス実態調査の結果を発表した。それによると、陽気なイメージのブラジル人の中でも、抑うつ傾向(気分が落ち込んでいる状態)の人が約三割を占め、日本人並みの結果に。同センターは、リーマンショックなどの経済状態の悪化の影響ではないかとみている。

調査は昨年十二月、に、質問紙に回答して、メンタルヘルスの外国人登録をしている もらう形で実施。七百 専門家が個別面接調査十六歳以上のブラジル 二十一件の回答があるを実施した。

人男女のうち、無作為に、さらにこのうち同 それによると、抑うつ抽出した五千人を対象 意識した二十六人に対し つ状態を調べる質問に

(荘加卓嗣)

不況など影響 原因の最多は「経済」

答えた五百八人のうち、抑うつ傾向が認められたのは百四十七人で28・7%を占め、二〇〇八年に実施した日本人市民調査の結果と同程度だった。

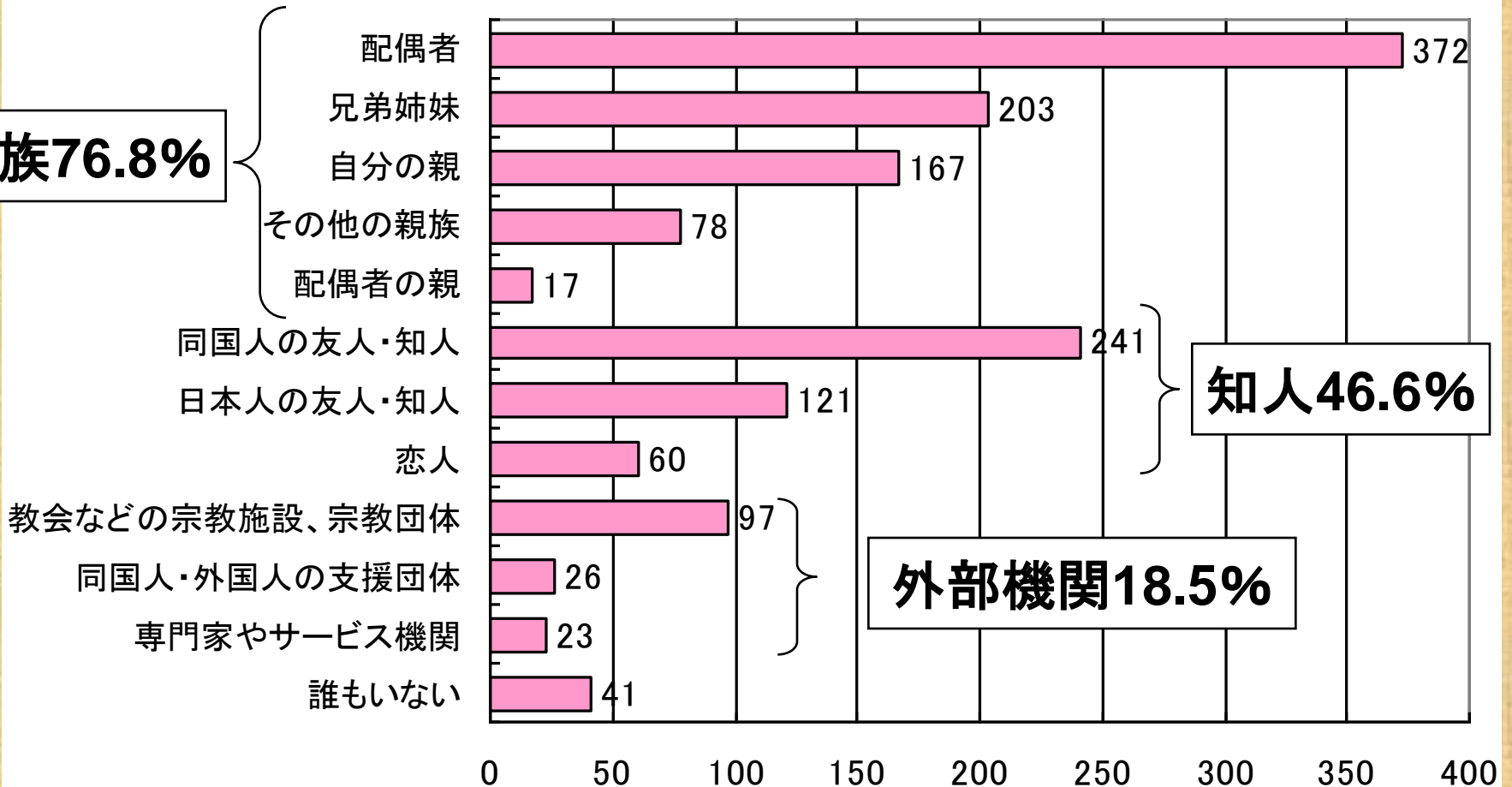
また、一年間(〇九年)の悩みやストレスが「あった」と回答した約六割のうち、その原因(複数回答)に「経済問題」を挙げたのが二百四十四件43・6%で断トツに多く、二位は「家庭問題」が百九十二件で26・6%。ただ、三位にも「勤務問題」百九十件で26・4%が続いた。

二宮貞至同センター長は「国際的にブラジル人を含む南米人の抑うつ傾向は、日本人に比べて低いといわれている。リーマンショックなどの経済状況の悪化に伴う厳しい雇用環境などが影響しているのではないかと話している。」

情緒的サポート (落ち込んだ時) の相談相手

相談相手あり 94.3%
誰もいない 5.7%
(日本人市民調査では2.7%)

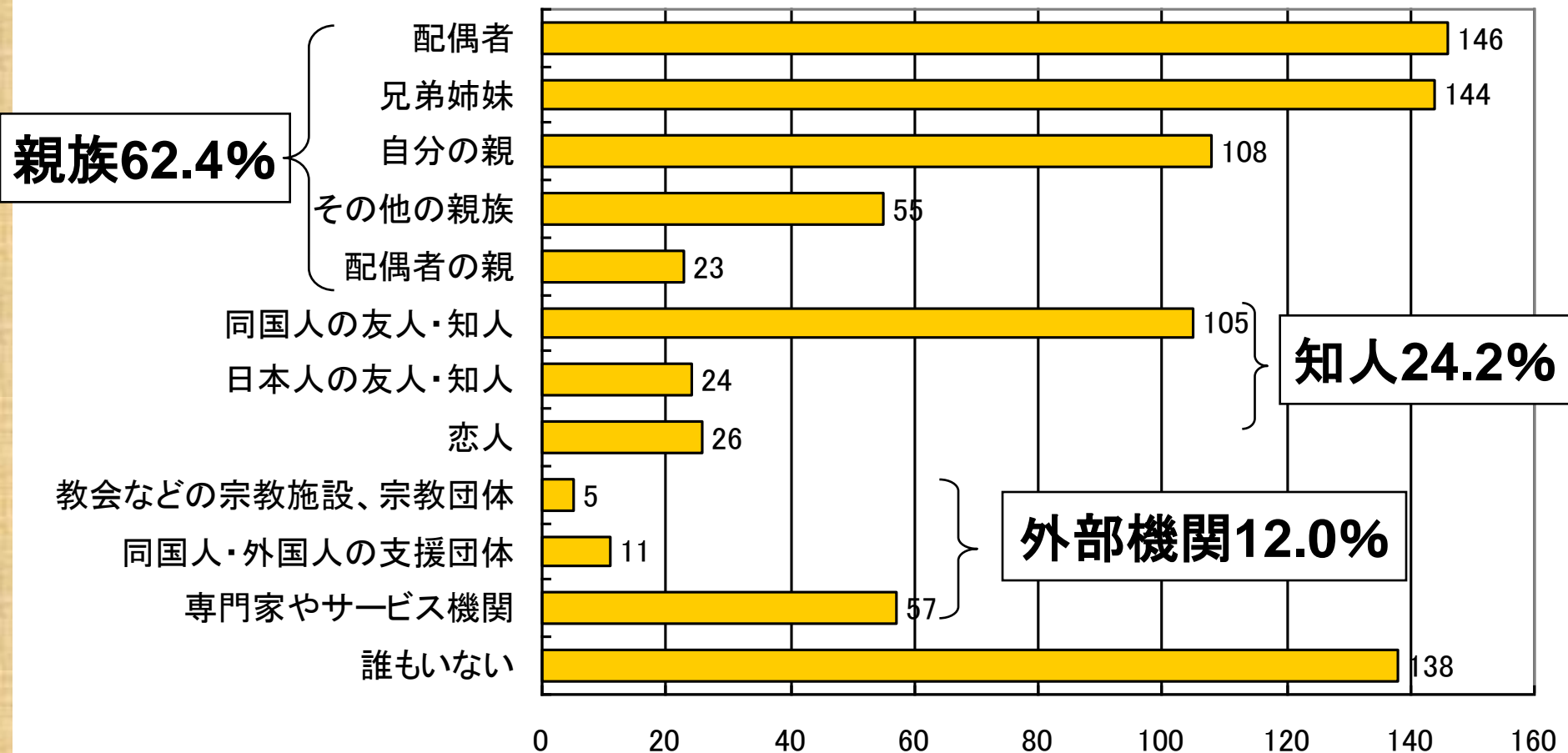
情緒的サポート『問題を抱えて、落ち込んだり混乱したとき』(複数回答)



道具的サポート (お金が必要な時) の相談相手

相談相手あり 80.9%
誰もいない 19.1%
⇒相談場所、情報提供が必要

道具的サポート『急いでお金を借りなければならないとき』(複数回答)



来日後の自殺念慮

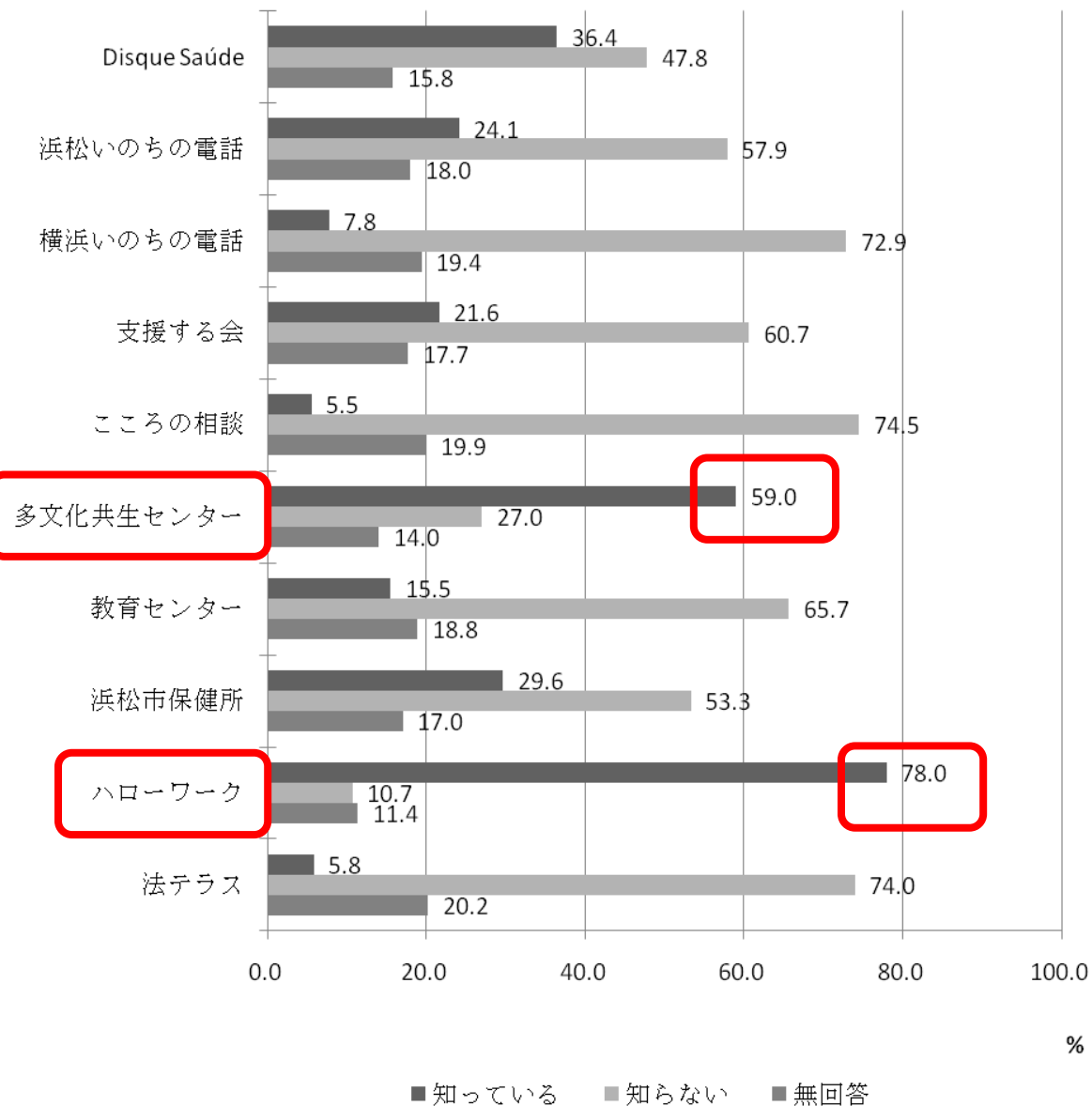
来日後に自殺を考えたことがある人は62名(8.6%)

* 日本人の調査(この1年間で8.7%)とほぼ同じ比率

自殺を考えた理由(複数回答可)	回答数	%
人間関係で悩んでいたから	25	40
家族生活がうまくいっていなかったから	21	34
経済的に行き詰まっていたから	19	31
恋愛関係で悩んでいたから	19	31
孤独と感じていたから	15	24
仕事がかまくらいっていなかったから	9	15
健康状態に不安があるから	9	15
日本での生活になじめないでいたから	1	2
その他	4	7

(N=62)

図 相談機関まとめ(N=722)



・相談機関の
認知度は低い

・ただし、次の2つ
は認知度が高い

☆浜松市多文化
共生センター
☆ハローワーク

自由記述の分析

- 721部中、112部(15.5%)で自由記述あり
- こころの健康に関する意見が大半(65.2%)
 - 人間関係 17部
 - 人間関係の希薄さ、孤独、日本社会側の問題点
 - 信仰 14部
 - 神への信仰で困難を乗り越えられる、自殺は罪
 - 医療 13部
 - 精神科医やカウンセリング専門家へのアクセス困難
 - その他 26部
 - 健康保険加入、職場でのカウンセリング、電話相談

日本語回答の若年者

- 日本の高校在籍中ないし卒業した回答者の中にも自殺念慮者4名
- うち2名は、自由記述欄に日本語で自殺念慮の背景を書きつづっていた。
- 高校進学「成功者」の中にもメンタルヘルスの問題を抱える者がいる点に注意が必要

2. 調查結果

2-2. 個別面接調査

背景

- 『平成22年版 自殺対策白書』
 - 2008年の日本における外国人の自殺者総数
321人
 - このうちブラジル人は12人
- 人口10万対死亡率
 - 日本人24.0
 - ブラジル人3.8
- しかし、浜松市内でもブラジル人の自殺あり

対象

対象者の年齢・性別・エスニシティ

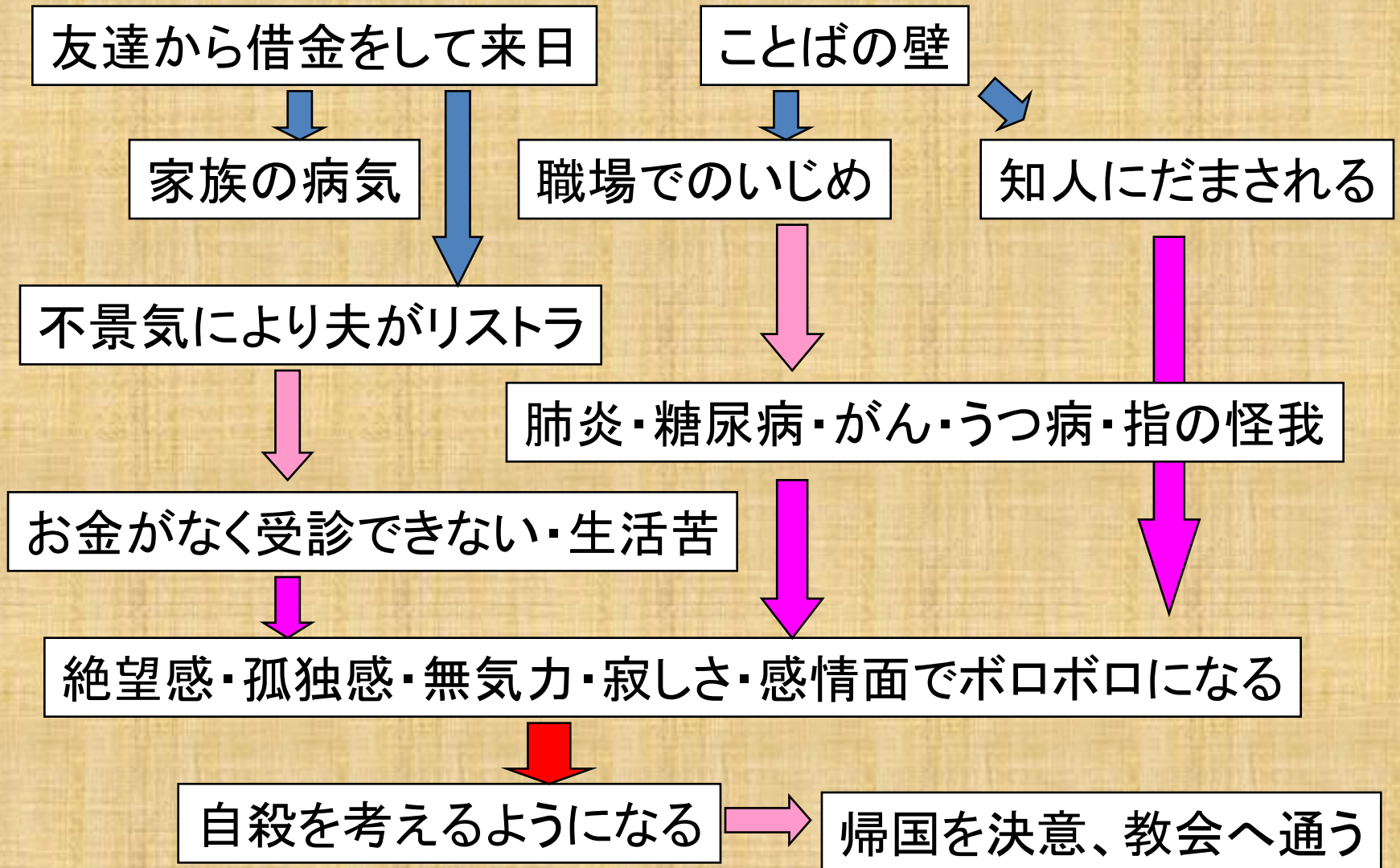
年齢	男		女	
	日系	非日系	日系	非日系
20代	3		2	
30代	2		1	3
40代	2	1	4	2
50代	4		1	
60代	1		1	

- 対象者 26名
- 自殺念慮あり 9名
- 自殺未遂あり 3名

面接結果 (26件から8事例を紹介)

- **事例1 男性(日系 55歳)**
 - 聖隷病院で治療を受けた
- **事例2 男性(非日系)**
 - ブラジルで兄が自殺を図った
 - 自分もブラジルで自殺未遂
 - 90年に来日、日本人に差別されていると感じる(黒人系)
 - 日本でも自殺未遂
 - 奥さんとの間に問題あり
- **事例3 男性(日系)**
 - パチンコ中毒、400万浪費
- **事例4 男性(日系 53歳)**
 - 自殺について考えることが多い
- **事例5 女性(非日系 47歳)**
 - 現在治療中、たまに死ぬつもりで外に出る
 - 借金が気になりうつ病の気配
 - 子どものため自殺は考えないようになっている
- **事例6 女性(非日系 38歳)**
 - 来日後19歳の時、自殺未遂
- **事例7 女性(日系 44歳)**
 - 13歳で来日、18～25歳まで精神科で治療を受けた
 - 自殺未遂3回
- **事例8 女性(日系 30歳)**
 - 自殺を考えたことがあるが、娘たちのために図れなかった

事例 I 40代後半 女性 非日系人



自殺未遂者3名の状況

自殺を考えるに至った要因は複数

	直接の動機	精神状態
1	職場の人間関係、 過労、失業、債務	ストレス、自信喪失、 孤独感
2	身体疾患、失業、 生活苦	ストレス、自尊心低下、 抑うつ、苛立ち、ひきこもり、 悲哀感、憂うつ
3	家族の負債、家庭内 暴力、流産、浮気	ストレス、過労、憂うつ、 不眠、孤独感

自殺念慮者11人の状況

- 訴え: 身体の痛み、不眠、自信喪失、悲哀感、意欲減退、苛立ち、ひきこもり、無力感、自尊心低下
- 要因: 事業不振、失業、生活苦、身体疾患、職場の人間関係、帰国への不安、家庭内暴力、配偶者浮気
- 抑制力: 宗教、使命感
 - …神への信仰は困難を乗り越えられる力の源
 - この世に生まれてきたのは、何かミッションがある
- 医療や相談 (精神科医の診療・心理カウンセリング)
 - ⇒ 過去に通院 2人 今後希望する 3人
 - 現在通院 2人 考えたことがない 3人
 - 受ける必要がない 1人

3. 考察

- 経済危機下での失業や収入減も背景にあり、複合的な要因により精神的なストレスを負っている
- 今まで心の拠り所であった帰国が困難となり、閉塞感や絶望感を感じている
- 母国語で相談できる窓口が必要
 - ⇒ * 抑うつ傾向や自殺念慮は、日本人市民調査と同様の結果
 - * 相談相手のいない人が、日本人市民調査の2倍

4. その後の展開

浜松市在住外国人
メンタルヘルス相談支援事業

メンタルヘルス相談窓口を開設

(夕刊) 静岡(中) 100706(火) p.3 (第三種郵便物認可)

ブラジル人の生活環境悪化



心のケア 母国語で 浜松市が相談窓口

自殺予防 全国に先駆け

【日本語が分からず相談しにくい】などカウンセリングを求める声も多く、窓口開設を考えた。5月末には、ブラジル人相談員らの知識を深める取り組みとして、心理学者の講演会を開催。県内外から約80人が参加し、ストレスチェックや呼吸法などを母国語で学んだ。

「ブラジル人の心の健康の問題に関しては、医療従事者による相談ダイヤルや浜松市の電話」のポルトガル版と民間の取り組みが主体だった。「二市長は「不況で帰国者が増え、友人、家族などのネットワークが薄れているのでは、病院との連携と今後の課題はあるが、まず話聞いている」とい入の声に「声をあげたい」と話している。問い合わせは(電話)053(458)2310へ。

「日本語が分からず相談しにくい」などカウンセリングを求める声も多く、窓口開設を考えた。5月末には、ブラジル人相談員らの知識を深める取り組みとして、心理学者の講演会を開催。県内外から約80人が参加し、ストレスチェックや呼吸法などを母国語で学んだ。

「ブラジル人の心の健康の問題に関しては、医療従事者による相談ダイヤルや浜松市の電話」のポルトガル版と民間の取り組みが主体だった。「二市長は「不況で帰国者が増え、友人、家族などのネットワークが薄れているのでは、病院との連携と今後の課題はあるが、まず話聞いている」とい入の声に「声をあげたい」と話している。問い合わせは(電話)053(458)2310へ。

「日本語が分からず相談しにくい」などカウンセリングを求める声も多く、窓口開設を考えた。5月末には、ブラジル人相談員らの知識を深める取り組みとして、心理学者の講演会を開催。県内外から約80人が参加し、ストレスチェックや呼吸法などを母国語で学んだ。

「ブラジル人の心の健康の問題に関しては、医療従事者による相談ダイヤルや浜松市の電話」のポルトガル版と民間の取り組みが主体だった。「二市長は「不況で帰国者が増え、友人、家族などのネットワークが薄れているのでは、病院との連携と今後の課題はあるが、まず話聞いている」とい入の声に「声をあげたい」と話している。問い合わせは(電話)053(458)2310へ。

- 2010年7月、メンタルヘルス相談窓口(ブラジル人対象)
 - @浜松市多文化共生センター
 - ブラジル人の心理カウンセラーが対応
- 窓口開設時間
 - 火曜、金曜、
 - 第1、3、5土曜
 - 第2、4日曜
 - 9時～16時、無料
 - 事前予約 同センター
 - tel 053-458-2310

2011年度は増員

- 2010年度の相談実績は実件数697件
 - 月平均77.4件
 - 当初想定48件を上回る
- 2011年4月1名増員
 - 男女1名ずつの2名体制に強化

110519(木)p.22 責争

(第三種郵便物認可)

浜松市の外国人向け相談窓口

浜松市が同市中央区の多文化共生センター内に設けた「外国人メンタルヘルス相談窓口」の相談員の大嶋チットさん(43)と吉留富子さん(53)がこのほど、浜松市役所を訪れ、鈴木康友市長に相談状況を報告した。

市は昨年7月、市内のブラジル人のため、心の悩みなどの相談に母国語のポルトガル語で対応できる窓口を設置した。

開設から9カ月間の相談実績は697件(月平均77.4件)。県外からも相談者が訪れ、当初の想定(同48件)を大きく上回った。

教育・医療機関などと連携が必要な相談内容が多く、4月からは市内の精神科クリニックで通訳業務の経験もある吉留さんを採用し、相談員を増員した。

大嶋さんは「子どもの問題の背景には、夫婦の家庭環境や保護者の子育ての難しさがあることも

心のケア「継続が大切」

のサポートも必要。少しでも力になりたい」と意欲を語った。

相談対応は火・日曜の午前9時から午後5時半まで。事前の予約が必要。予約は〈電053(458)2310〉へ。

市長に告 9カ月で697件 実績報告



鈴木市長に相談状況を報告する大嶋さん(中央)と吉留さん(左)＝浜松市役所

相談員のプロフィール

- 男性相談員

- 1968年、サンパウロ州生まれ、ブラジル国籍
- ブラジルの大学を卒業、心理学士
- サンパウロや東京の心理クリニック、NPO、精神科病院、少年院等で心理面接相談の経験あり

- 女性相談員

- 1958年、サンパウロ州生まれ、帰化で日本国籍
- ブラジルの大学を卒業、心理学士
- 日本心理学会認定心理士
- 浜松市内精神科クリニック等で通訳業務経験あり

相談内容(697件中の比率)

- 面接(82%)、電話(18%)で面接が多い
- 市外からの相談も41%と多い
- 家族の問題(50%)、教育上の問題(17%)、医療機関(10%)が多い
- 男女はほぼ半数だが、女性が56%
- 継続相談が50%

傾向から読み取れる今後の展望

- 開設当初に比べると相談数は漸減。
- しかし東日本大震災以降、また増加。
- 子どものこと、学校のことの相談が多いが、背景には夫婦間など家庭環境や子育ての困難さといった要因も認められる。
- 関連機関との連携が必要な場合が多い。
- 精神科未受診は89%と多い。
- 放射能問題もあり、状況は不安定。
- 市外からの相談も多く、各地での対応が必要。

調査結果にご関心のある方は、

- HP上で概要をpdfで読むことができます。
 - 「浜松市における外国人市民のメンタルヘルス実態調査 概要」で検索
 - 日本語版
 - 日本語ルビ振り版
 - ポルトガル語版
- 浜松市精神保健福祉センターに直接問い合わせれば報告書を入手できるかもしれませんが。
 - ただし広く頒布する方法はとっていません。

参考文献

- 大塚公一郎他. 2001. 「ブラジル人の異文化適応とメンタルヘルス—アンケート調査による一般住民と外来受診者の比較から—」
『日本 社会精神医学会雑誌』 10 : 149–158.
- 大塚公一郎他. 2003. 「在日日系ブラジル人の精神障害—異文化受容との関係について—」 『精神神経学雑誌』 105(1) : 28–35.
- 野田文隆. 1998. 「多様化する多文化間ストレス」 高畑直彦・三田俊夫編『多文化間精神医学』（臨床精神医学講座23）中山書店、
19–31ページ.
- 野田文隆. 2009. 「多文化・多民族化時代の精神医療とは」
『精神医学』 51(8) : 728–738.
- 宮坂リンカーン. 2000. 「在日日系ブラジル人の現状と精神保健の課題」 『精神保健研究』 46 : 73–78.

ご清聴ありがとうございました